

# 山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用  
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援  
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	オークランドホーム
(ユニット名)	こまくさ
所在地 (県・市町村名)	山形市南原町3丁目20-26
記入者名 (管理者)	高橋明美
記入日	平成 19年 9月 1日

# 山形県地域密着型サービス自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、本人らしく、住み慣れた地域での安心した暮らしや地域生活の継続を支えるための支援を理念に掲げている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	学習会や申し送り等で、常に理念を伝えて確認している。又、見える所に掲示してよいケアに繋がるよう日々取り組み意見の統一を図っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には入居時説明し、面会時に分かりやすく説明している。ホーム便りを発行し、利用の様子を知っていただいている。地域の集まりやイベント時に事業所を理解してもらえよう努力している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買物等毎日の外出の際は、近隣の方に職員は率先して挨拶したり話をする事で、気軽に立ち寄ってもらえるように努めている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の盆踊りやお祭りに利用者・職員は積極的に参加している。又、公園掃除活動には積極的に参加している。また、職員も地元であり、町内に顔馴染みの人も多く、交流しやすい環境にある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は事業所での状況をみながら、地域の様々な研修、機会に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。随時、認知症の相談も受けて対応している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全員に伝え、全職員が個別に自己評価を毎年行い、全員で取り組み一つの評価としてまとめている。それを踏まえてサービスの向上に努め、学習会等で改善に向けて話し合い実践に繋げる為の努力をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、民生委員、町内会長、地域包括支援センター職員、ホームの職員の出席で定期的に運営推進会議を開き、理念やホームの状況、自己評価、外部評価、今後の取り組み等意見交換して出席者の意見を取り上げサービスに反映するように努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市・主催の研修会や山形市認知症GH連絡会には必ず参加している。 また、認知症キャラバンメイトの活動などを通して、市担当との交流から認知症ケアやグループホームケアについての幅広い情報交換を行っており、ホームの運営と利用者のサービス向上に活かしている。		要望 市職員の研修場所として事業所を活用してもらいたい。 (利用者の交流、高齢者の気持ちを知る為に)
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会で理解を努めている。又、ユニットは違うがホームで活用している人がいる。(成年後見制度)		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会やミーティング等で、高齢者虐待防止法に関する理解、浸透や遵守にむけた取り組みを行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族が納得いくように十分な説明と同意を得るようにしている。 また、不安な時はすぐ契約を結ばずに体験入居という形をとり、本人、家族が納得した上で契約を行うようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、今までに不満や苦情はない。利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営に心掛けている。 また、請求書と一緒に何でも書いてもらえるように用紙を送り、玄関先にポストを置いている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、ホームでの暮らしぶりやエピソード等を写真等で伝えている。 ホームたよりや2ヶ月ごとの状況報告用紙に健康面や生活面を記入し送っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱他、ご家族が気軽に意見を出せるように郵送し、入口ポストに入れられるようにしている。 面会時、家族から何でも言ってもらえる雰囲気作りに努力している。意見、希望があれば、出来る限り行う努力をしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の学習会の時や意見、提案等があれば話し合う時間を設けている。 日頃のコミュニケーションが重要だと思っており、親睦会等も数多く行なっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者が入居者の状況に応じてその都度調整を行っている。 (夜勤以外の夜間助っ人、日勤助っ人等)	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に積極的に声をかけて、顔なじみになる努力をしている。 法人内のグループホームと普段から顔なじみになるように行き来している。 交代時は職員に利用者の個別特徴や注意点をしっかり伝えダメージのないように努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内、外での研修になるべく多くの職員が受講できるようにしている。(年3～4回) その後、研修の報告書を全員が読むことができる。 学習会も月1～2回全職員で行なっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は多数の研修会に出て、交流の場を確保している。(研修の実習施設)市・県グループホーム連絡会の交換研修も積極的に取り組んでいる。 管理者は認知症介護指導者になっており、県内のみならず、県外とのネットワークもあり、サービスの向上のために日々取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者や職員同士で相談し工夫をしている。 飲み会などの親睦会も取り入れている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格を積極的にとって行くための支援を行なっている。 また、職員からの利用者のためにやりたい事は、できるように支援している。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の言葉に耳を傾け、本人の表情・しぐさ・様子と向き合い、本人の気持ちを受けとめられるように努力している。 本人が安心できるためにはどうしたらいいか常に考えて行動している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	今までの介護をねぎらい、家族からゆっくり話を聞き、家族の苦労やサービス状況等を聞き受容しケアに活かせるように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要と思われる時は必要なサービスを紹介したり、本人、家族の思い、希望、状況等を確認し、家族で抱え込み過ぎないように改善に向けた支援に努めている。 (ケアマネと相談しながら。)		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩とし 尊び学ぶ事が多いため、日常生活でお互い協働しながら努力している。 利用者に教えてもらう場面作りを多くするように工夫し「ありがとう」との感謝の言葉がお互い出る環境を作っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら日々の出来事や気付きの共有に努め、家族と同じような思いで本人を支えるよう支援していく。 また、来てくれた時は手伝っていただいたり、共に食事したり、他の利用者の話し相手になってくださったりと私達も支えていただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時、状況を細かく伝える。家族と本人のパイプ役になるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの友人、知人の関係が途切れないように、手紙を出したりしている。 本人に思いでの場所や行きたい所を聞き行けるように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の食事、おやつ時間は多くの会話をもつように心掛けている。それぞれの役割をもつ事で利用者同士の関係も出来ている。その方の生活歴などを把握し、どうすれば皆となじめるか、本人が暮らしやすい場所になるかを常に考えて支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホーム便りを発送したり、行事等に招待したりして、継続的な付き合いが出来るように心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴を把握した上で、日常生活の関わりの中での言葉や表情等から本人の思いを把握できるように努め個別対応に繋げている。本人が言葉で言えない時は家族からの情報を得たり、本人本位に職員も他人事ではなく、自分事として考えるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・関係者からこれまでの生活状況を聞く。ケアマネ等からもサービス利用経過等を得る。利用中も事あるごとに、どんな生活をしてきたかを関わりの中から聴いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人一人の生活リズムを把握。言葉・表情、動作などから本人の全体を把握し、個人を尊重し、その人に合った時間や残存機能の活用を行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	認知症の人のためのケアマネジメント センター方式で課題分析し、全員でカンファレンスを行い状況を共有し、計画作成に活用している。本人や家族、必要な関係者それぞれの思いや意見を把握して介護計画に反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランチェック表で毎日出来ているかを確認、状態が変化した時は3ヶ月終了する前であっても検討見直しを行っている。本人、家族の要望等も用紙を作り取り入れられるようになっていく。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録ノートを活用し、職員の気付きや利用者の様子、言葉やその人の色々な状況を記入している。職員は記録を見て把握するように伝え共有している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	民生委員や警察、消防等から協力得られるように日頃から連絡をとるように努力をしている。図書館の本を頂いたり、生花や踊り等のボランティアの協力を呼びかけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて他のケアマネジャーとの連携を図っている。(居宅支援事業も行なっており、色々な方々の出入があり、必要時は話しを聞いたり、助言いただいたりしている。)		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の中で協働している。周辺の情報や支援に関する情報交換、協力関係が出来るようになった。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医になっており、家族の協力や職員が代行で付き添い受診する体制になっている。協力医の往診も利用者により1～3回行なってもらっている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常的に本人のプライバシーや誇りを損ねないような対応・言葉かけを学習会や申し送り等で徹底を図っている。職員は個人情報保護法の理解に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が言葉で意志表示が出来なくても表情や全身での反応を注意深くみることで本人を把握する努力をしている。おしつけにならないように注意している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況に合わせて、その人その人へのペースでゆっくり柔軟に対応している。 外出したい時はその時に行けるように、できるだけ配慮している。 (食事・排泄・入浴・買物・散歩・気分転換等)	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは本人の意向で決めており、少々時間かかるが見守り支援をしている。 身だしなみは特に気を付け、人により化粧も行って楽しんでいる。 カットやパーマは馴染みの店や希望に合わせて支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と相談しながら行っている。盛りつけ・片付け・利用者と共に行ない、職員も利用者も同じテーブルで楽しく食事できるようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の健康状態をみながら、ビール・チューハイ・アイスコーヒー等の希望あれば飲んでもらえるように毎日支援している。利用者同士でも飲む事がある。おやつも10時、3時、差し入れ時と好きな物を把握しながら行なっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人のサインを職員が把握し、さりげなく誘導するように心掛けている。チェック表を活用し、本人の排泄パターンを把握して尿意ない人にも時間を見計って誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めるのではなく本人の希望に合わせて、くつろいだ気分で入浴できるように支援している。清潔状況に合わせ、タイミングよく入浴できるようにしている。毎晩のように入られる方もおり、入りたい時に入れるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の体調や表情、希望を考慮してゆっくり休息したり、睡眠とれるように支援している。ソファや椅子など休息出来る場所は利用者分以上確保してある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人にあった楽しみや、役割を見つけて力が発揮でき、生き生きできるように支援している。常に感謝の言葉をかけ、次への意欲に繋がるようにしている。気晴らしに、コーヒーやソフトを食べに行ったり買物したり、花展に行ったりと個人に合わせたケアをしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で立て替え領収書と交換している。金銭管理出来る利用者は家族の協力を得て本人の能力を活かす為にもお金を持っている利用者もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人に合わせて、散歩・買物・外食・気分転換に出掛けている。車椅子を利用して出掛けている方もいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の思いが叶えられるように、家族・職員で話し合いを行い、できるだけ支援出来るようにしている。利用者・家族・職員と毎年一泊旅行も行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員がさりげなく間に入り、スムーズに電話での会話が出来るように支援している。 電話はどこでもかけられるように配置してある。(7台) ハガキ、手紙等を出す為の支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪ねてきた時には職員が笑顔で接するように心掛けています。 気軽に来やすい雰囲気作りを常に心掛けています。 家族でゆっくり自室で話ができるように配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員は何度も学習会でとりあげている。 身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけず、自由な暮らしを心掛けている。 利用者が外に出そうになったら気配を感じ、一緒について行くように努力している。 その日の気分、様子、状態、気配を常に意識するようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に全員の様子を把握出来るようにし物音がしたらすぐ訪室し対応している。 夜間ケアや緊急時に備えて利用者に合わせて最も確認しやすい位置を工夫し対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所をしっかりと決めておき、利用者の状況に応じて注意を促し、その都度対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態から予測される危険を検討し、未然に防ぐ工夫に取り組んでいる。 ヒヤリハット用紙を活用し、再発防止。家族への説明と報告を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	学習会等で応急手当の仕方等を習得している。又、マニュアル等を活用し、各自努力している。救急手当等の研修会に参加している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練、消火器の使い方、避難路の確保等と設備点検を定期的に行っている。災害時、緊急時マニュアルもある。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	鍵をかけないことや事業の取り組みを説明しながら、リスクは高くなるものの、利用者の表情を明るくし、抑制のない暮らしが行動障害を少なくし、利用者の不安を少なくすることでのリスクの軽減も図れることを説明し、理解協力してもらうようにしている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃の状況を把握し、少しの変化にも気づけるように努力している。バイタルチェック等を行い、正確に報告・医療につなげるように努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をしっかりと活用し、職員が内容を把握し、変化みられた時は看護師に報告し、医療に繋げている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品等を取り入れ、体を動かし自然な排便ができるように取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨き・口腔ケアに力を入れている。職員全員口腔ケアの重要性を理解し、対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取は、状況表にて毎日把握している。 栄養の偏り、水分不足が起こらないように十分に配慮を心掛けており、定期的に栄養士の専門的アドバイスをいただき対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防と早期発見、早期対応に努めている。 衛生面がうがい・手洗いを徹底している。 利用者・職員全員インフルエンザの予防接種をうけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所・調理用具等の清潔、衛生を保つようにしている。(まな板・布巾は毎晩漂白、冷蔵庫の点検・整理、等) 新鮮で安全な食材を使用する為、毎日買物をし、なるべく買いためしないように心掛けている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	洋風住宅で玄関に花などを植え、明るい雰囲気を取り入れやすく、配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感を味わう、調理や洗濯機の音、ご飯の炊ける匂い、調理の匂い、音楽等どこからでも味わえるように意識的に季節感・生活感をとり入れるように配慮している。 家庭からも本人の大切な物等を持ってきていただき、安心した居心地よい空間になるように配慮している。 明かりは安心感のもてる明るさに時間を見て調整している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、観葉植物や生花等を飾り、ソファや椅子、畳みコーナーで一人で過ごしたり、仲のよい利用者同士でくつろげるスペースを作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居心地がいいように好みの物、馴染みの物(写真・時計・ラジオ…その他)を持ち込み、配置に創意工夫をし、居室の空間作りに配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入れ換えや温度調節には常に意識している。湿度計温度計を活用している。 居室には天窓があり、こもらないようにしており、空調設備も数多く設置してある。 居室やトイレは換気扇と消臭剤で悪臭が出ないように工夫している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせて、手すりや浴室、トイレなどの居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員同士で話し合い、失敗や本人の不安・混乱を取り除き、状況に合わせた環境整備に努めている。 裁縫箱や園芸用具、掃除用具ほか、できる力を活用できるように物品は揃えており、利用者もある場所を把握している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関脇のスペースを活用して野菜作りを楽しんだり、花壇を見ながら外気浴を楽しんだり、リフレッシュできるよう支援している。 洗濯物干しや漬け物置くスペースもあり、生きがいの一つとなっている。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自宅等での生活は困難ではあるものの、支援を受けることにより、自分らしく、日常生活の中でできる事を行ない、残存機能を活かした生活感覚により、認知症の進行を穏やかに和らげ、一人ひとりが役割をもち安心と安らぎのあるところで尊厳のある生活を可能なかぎり継続できるように支援します。

オークランドホームの環境を活かし、本人の暮らし・楽しみ・生きがいや心身の活用・刺激のためにも、趣味・買物・散歩…等積極的に外出を取り入れていきたいと考えております。

家族の一員のように共に過ごし、人間的なふれあいを大切にしたいと思っております。

利用者一人ひとりの意思を尊重し、ゆったりと安心して過ごせるような生活環境を作っていきたいと考えております。

“ゆっくり、のんびり、その人らしく、自分のできることを行ない、楽しく、お互い助け合って生活しています。”

ゆっくり、のんびり、ほっ、としたくなったら、いつでも遊びにきてください。ず～っと前からここに居たような時間を過ごしてみませんか。